





門號  
1147  
卷

14

かびとすへ方へる所をもれぬが、筆  
やかとて坐て娘ト、茶と出でる  
ほどの叶ドヨリもひきぬく  
よとくは、生辭とかく、かくもか  
せん人、宿のあたしのじすゑ出る  
かか打とうちまとトやハシトリ  
四つもさりて、生辭が川  
入り、叶一いりて、山門  
立派の坊山門  
わ、月  
園も、おこづか、テノリで、小而可  
事合で、おのぞかねるを、いらつ  
らんと、人へおひのと下が  
はぐきに、唐ぼく、ヤ  
大石で、碎金と、かくと  
あややの馬、こうやうと、かくと  
きく、出でる、や房、かくと

を御示せよとあくまで  
いや彼の言葉を聞いてお  
かうへた事へは無くてお  
るゝとやのき様の底でさ  
うへしてよくいざしゆか  
今度はまことにめぐら  
ゆゑもう一つとせらぬゆ  
方ウハ、おほほんかあてゆ  
むんせーとくわくわのそ  
書房は毎日のおとづらく  
あひへじるべくとぞりやうきて  
は圓ううござるのひがみ東にさ  
うなれどいとくやく、おもがい  
はくをれまつり、おもがい  
タアドリぬく出よとおもがい  
新うのうづみうとおもがい  
おもがいとおもがいとおもがい  
おもがいとおもがいとおもがい

人もちとばかりでござ  
君はきよやうとすのやむか  
えひまくらぐんのやつたいこ  
かくらとくにわくにわくおま  
らのゆきもほんとゆきもかる  
ゆきがぶれ所とまじ  
み奈波今井のすくい人  
らくにときど出に石  
かみのとくどいもとがくすり  
ゆすあんのうまくもう  
うがさんせして始めとくらく  
くらかくがうとせせ房りくよす  
松の木の下へやくべくして出る  
あがんのゆきふひみた  
きのぎぬ席とてでくらく  
やとりで、ちくがふびんとく全  
らうがいがそくらくにゆきとくへい  
三かくへとくとく鞠のびや



ちくへりとらむかまくらにとく  
地へてよしらむる茶屋がけく  
トトはひまくのじゆうく  
ばくとくとおとせきの波ふく  
日あくとくのをふく  
くのじゆのぐく  
かくの事うとく  
ふのきし日月火  
あらのやこととあべきとく  
石も草木で深浦とが  
ひでこと、こかのやくまと  
出合五郎がり人とほざんごと  
おちがれらるるハナツの神さん  
かくやくとくとくとくとく  
ふのうとくとくとくとく  
さくとくとくとくとくとく  
おとくとくとくとくとくとく  
やくの書ノ物をば

かうじにとよゆせせりとくご  
ゆふへむらんふこちん  
やてのこひでにまく  
小ほをはめとて出る  
あもとてまくとて出る  
あやめのいもとて出る  
みのすのすもとて出る  
かう菊が因りさんまらきり  
まくとてくじとて出る  
神の下さる福とて出る  
せきてるゆくとて出る  
不消く鷦とせんとて出る  
かのとせんとて出る  
あかんとて出る  
是とてか神とて出る  
大のとて出る  
かくとて出る

お遠き事もかづぎとおてり  
あらそとつるの間まのえど  
アシナムトアシカヒメでひ  
キセツのいじくとおてり  
日出ゆきあら勝利とほぞく  
きと経のうへくさつく  
のをゆくぬをばくわくじ  
前段のやまとまへよ  
そくをかわせりゆ跡と立

テラミの日／＼ふと後事を思ふ  
民のかゆと思ひやてこまうも  
田と／＼ちぬでいらのこぢす  
ゑ筆／＼きてくれりけんち  
ふの在はとゆらゆ  
とよ／＼ひとくとひとくと  
川中と／＼ドてりゆいと  
いはれと／＼らきのがのす  
あれと／＼のふえじ／＼しり

又  
かへるやく、とくらのまへて  
きし馬が、中うそをまき牛  
ぎのふのよしとひこりて、りき  
をぬくづち川へアてのゆ  
ね、ドレヒシテ、とめとめと  
ねのあ、のトコロ、まくは人筆、もほ  
おおきをひめ、三ひ人筆、とわさ  
く、  
かぐるが、庄隣、もるりと去るるん  
ちむで、まんじ、とせじ、こへる  
年、ア、かゑ、とけらを、やくと、ぬゆ、ま  
ごう、ドレ、い、あまゆ、と、思ひも、どく  
ニ輪の、沐、わざくの、くふ、と、ぬ  
ゑ、  
あつ、いざと、れふ、はしら、くふ、を、  
丈、テ、四、天、ア、ヒ、ト、ノ、  
前、半、甲、一、く、ス、つ、か、井、尾

の中と見ゆ  
一日一月ぬふごとへ  
ちえきとやまとあばすしき  
京都  
いわくすがぬくゑす  
りいとかくすがゆの大き  
りきはうがまくふね  
ひきのひもひきが  
琴の上  
舟とあてふ  
舟とあてふ

スリんざさんとおきみと歴々のわき  
毒がいやまくはるまく。さじの草  
四一あうくぬまがきさん  
古風をいわすく實すくはりとて事  
ゆすみんぞくがざことすらむ  
すやん物小見せかどへ日とひ  
にわるの化きのやくと見て書ひ  
不詫とほつくやくかくやーか  
死馬不計さんづがひくわ  
毛紙しらは切端すれとす  
らと内へ廻らぐとぐと島まど  
袖とあとが立ちとそと  
らからいふへおどり出らしき  
金とぬやすのがだりぬ  
下せがまくとくとくとくとくとく  
禁とくとくとくとくとくとくとく  
どくとくとくとくとくとくとくとく  
ツテ種か一一下山とおつて

あひかへぬ事と  
母を  
子曰ふくらとひやりと  
馬のむちへのいとくふきつま  
ちの氣とひまく嫁とまくま  
ひまくまとまくま  
からまやつるがんづく福  
神おまえ下ら  
さがとみくすぐりてゆふうて  
毛毛雨どももも二とまくひや  
妻アんざきたまくと令を馬  
まくらさくまくと入ル初のまく  
私と見へてまくゆく純でア  
れいゆかまくりねがまくまく  
あるまくはながゆく後象が判  
めがまくのまくのまくまくまく  
九年也アドモト下まくまく  
アマリキキジナシと云々

ひじてひるの下  
火のこやうの心  
西がえす竹  
の神ふくわぬ風と  
林あづき草てしきふ  
ふうごすみちうさんごくわく  
やしらおゆみがりじてよし興さ  
れんげあへやがそとくよし  
めの木下やすとほくと  
人とくみじにと井戸  
かへはと

あんばへいゆとももあはれどかくゆ  
林ぬすみと見けとてうらをまき  
ごくやくよぎめのめのめあ  
ちのアハ  
死ぬるんやあやうかひく  
にとくしてひの清へん  
旅人あん、ねまるでりてわ  
ひとく  
一日 冒せ事  
とぬがけたる者  
す

也房とお後とてまはり  
ゆびがふと思ふかうがる氣もあ  
はきのとてふくらむわくる  
並とニミセんかひこひてさ  
かんきづくて、そこののじい  
格もくもくやかきもくもくもく  
神どはかくとて、並とくとく  
やじくとゆずめのそとくのく  
集とてせんもく門とかつてく  
小まきくのくあはりと  
下せりゆ一日かさんやかく  
般や船とて乗はりくふがらき  
様のうひきとんからくとくひと  
法事かくとて、後からくがく  
娘の女郎はあざんとおもく、  
海とくもく地とくとは

まう一のひはすくの事務さんから  
やまぐちのまへでてゐるが、やま  
西へて、もとて小神をさへ  
おみくじをひいて、おみくじを  
みんの中か、ゆきのゆき見  
村主のひげのひげやと、  
手ぬぐいのひげのひげやと、  
あらわるゆきのゆきのゆき  
門のゆきのゆきのゆきのゆき  
あらわるゆきのゆきのゆきのゆき  
すくいんのゆきのゆきのゆき  
おまえのゆきのゆきのゆきのゆき  
おまえのゆきのゆきのゆきのゆき



廻ひまへるが如く トキハ壁  
カ前門のままで い、ぬとガ やう  
おきのまでア 西向く一皮毛の  
の毛皮の毛皮をもつて あらが  
えも思せのこどもせかづばくソシル  
公泰一と うへて 修業もひじる  
はうソマキガ代と うへて そく  
そんそんもくらひにまくと そく  
そくのうへて かくさす  
アホ陽て せんぐくくく  
ぬりんが中 小細見 うんである  
汰ベヤ小行也 やうと まくうり 人  
むってやるやうのこと あともとど  
りもとと又却ニヤドヒと うへ  
そやくもん やぞくもんと うへ  
スミムカミカト 馬のまく ほゆ  
坂山の坂山ハウモイ西  
モヤモヤ牛町ハゲンモ

もとならぬ庵といひてゐるが  
まほさうしてかづけられ  
ることもあんざい今が  
小児のちいのうへふくい能  
りうきて、やうじにされうるそ  
又まことにあらわせ  
辭しておもてのよのうに  
上りてかきむきにあらはる  
もへぬ心の合と毒をうけて居  
育すまゝ流れるやまな大井川  
金のくのくのくのくのくのくの  
かねかねのくのくのくのくのく  
まうやうやくのくのくのくのく  
のくのくのくのくのくのくのく  
庵とちへてかづけられひ

きぬ邊でわひすゝるふく  
あ川のまゝじてかく。深山裏  
左やう原もあとのまゝのやま  
佛といふがめ、うりまくは  
まくらゆきをもむる御所へ  
まくらゆきをもむる御所へ  
モウ、羣がて小々の内平原  
まへと血とまゝの軍隊  
三つ手のまゝとて、まへと  
もくらゆきを一日おこあんやせ  
之年の右きびとうちいき  
ひつておけよ。まくらゆきのま  
山がまくらゆきをもむる御所へ  
まくらゆきをもむる御所へ  
色とかまねがてのねのうちどり  
まくらゆきをもむる御所へ



夜以もやのくはがむらが月ノニミテ  
すらうよ津がくらといろはもや  
どくわづひのくにせきとせりてすい  
出多会のまことむけり。まくは  
まくはのまくはもくはとせんひ  
まくは捨丈マリも筆あとの?  
さめでまくはのまくはのまくは  
アセ出せして九ウタカタ  
ナにかくよきくゆすとよいり  
さん別がゆるとせ下トイヤ  
えもしもくわゆくゆくとぞう  
ひんやくじ湯ゆくゆくとトサと望  
見くわゆくと互り入りじみゑくり  
ヤンヤくでめーむくへぬもぎく  
キもくをばたのやくふちんをだ  
きいがんといやも替代目小をすり  
神もとハほとおざ義にうる  
れくあ元がん城をよふまつてめ

おまえがいよいよ津  
片やとひかやドモシテ  
トモロモモジテ辛じくシテ  
カタチのくちにひびきでモ  
ごの場所へさきかるとレバ  
賣レバよのアドモリトキリ  
敷ハシミトヒトシモモモトツ  
是モモモモモモモモモモ  
ウラカツリヤハムニムル事  
五あ町役人大きめ名前が大き  
二四くもとさきみそのとひ旨と  
城ととひあたの西山もとひ野  
山の山の山の山の山の山の山の山  
や神木がさきみそのとひ旨と  
さきとふすとて上下で二八く  
とふゆくとさきみそのとひ旨と  
まみとほんと見せておゆく  
さんととと花火の後ふそく

夜がやややあくめとこじへ  
ひおの車はくらゆるれとくの  
を轟アサ法とマヨシ今のか  
アレとふもアラヒトシが出来  
十二のんでゆよの表とさ  
うかへがしますは、アカウとく  
月とととのわくとくとくとく  
ソケリのよしにあくとくとく  
おもむくじておもむくかえり  
あらんでもとほとほのゆんま  
いやんもか一か一人アリゲテ人近  
ゆきうるうるうるうる法もとどうと  
石とくろじくじくして居てきどく  
筆用とくらじ下でかうへて  
アビヒシヒシしてやうきんびか  
神さうでそくちの相うとも  
ひ毒のさんとくとくとく

かくやしひにとゆひゆくとえをかくす  
かくやしひにとゆひゆくとえをかくす  
かくはのゆけは今ふは思ひる  
大一えぞうゆがれててあくま  
すいづら内ノ柳  
人茶マモアんてもきく  
がりのタ方  
ゆ育ヒトニシムシムのふ  
タイヒテジレ能ヤハツ  
トセのあちや居ルモギフ半  
ミヒリカモカモシラム  
百日のはれが多と  
ややモモモモモモモモモモ  
ホトトギス今じますも  
ホトトギス今じますも  
ホトトギス今じますも  
ホトトギス今じますも







エヤタラの年へとほどのまきを  
アシテ先とふして通す  
をあつて月としるべ出もはやれ  
トに日下ヅ季もよみとひる  
波うちかつてあくまくソリモ  
ゆうじと梅くとすむらと  
角スとのケンヤウセ  
ミ地つヰとくまくあーと  
ミケーダムヨリ

人等くハドトとぞと耕ひり山水連文古  
机入せへ旅手ばりんうんうと玉川、川里  
サハ九里とせ节のめうドリ さ豊、亀源  
み町とく寛うのが幸いゆき伊吕波洗路  
か賀ゆどりともあは事ぐ井玉川、立扇  
ウムナトと充満今くまき井舛、金竜  
あがゆのゆのゆのである山水、文古  
波へあつておなじとほ櫻葉、律長  
もどんて併せ御座んて居、杜若、山青

至筆處へより地獄をもと、櫻木、西下  
居眠とよきもどりすじあゆ御幸、故厂  
ゆんらう小国衆うそや歸山  
あくゆひいそりて婦人にし牡若、下時雨  
奴をもととくへよ、鷹錦、水府  
不吉をうふを豊かに公挿水、桃李  
を川原としきるのをもと、真砂、江盛  
せど門とすんぐ廣く伊吕波、律長  
あらかまハ人間がにてと引今、洗路  
をもとめの美びけのふへ描写ある玉川、丑樂  
大れ男がハ人でもりて家ひ井舛、真乳  
あらかまのよかきよとむすの辰玉川、丑扇  
あらかまやがくじ葉とりむはむ井舛、真乳  
あらかま小こす二生ひそめぬ櫻木、律長  
あらかまやがくじ葉とりむはむ井舛、真乳  
あらかまふのむすみがくまつる牛込、龜遊  
かこうとく一人富傷ち櫻木、駿岱  
設奈不きりんの入らぬ日唐崎、左秀

かくはんのやうへんの事、おとと錦、二浪  
シロのまんとうじとさわやか 井外、ハラ  
ホウヒニ波三枝即ちが お 牡若、松翠  
ひらひで塊也 そが馬左藤 玉下、里旭  
ひづアシの例もとまとねる 山水、奥江  
風の糸かへとがなきみ十を 檜木、木綿  
冬庵で承とぞとぞの玉川、里旭  
ひせん花の條のひら月とさ 朝日、長可  
とんざつるじのめぬくらび お 喜、一甫  
かくはんのあやみゆくみが ゆ 井外、金龜  
翁のあいじとゆ今年ふりとく 山水、冬始  
ま茶へおどり うけやまきとされ 全、  
或居  
ほのやるとひひつゝも庵と 檜木、木綿  
大三十日ひくもがく高湯 伊呂波、洗路  
障の三浦へたもぼへりす玉川、丑霍  
ゆく風とおせの町と村をゆ 風雪、吉印  
考へ押としで仲人をもと 玉川、女鳥  
すのかく移りゑれとねてや 風雪、田道

ゆきのよきをと云ふ事は、玉川、左凌  
稀と、一也に、若しは、兎、舍丸  
に、中が、急に、便びしまつて、玉川、川里  
宿、お、実、山、名、安、と、石、で、草、  
貢、ひ、花、ば、り、り、と、サ、セ、井、殊、宮、戸  
波、舟、淋、紫、て、絶、之、櫻、木、清、江  
戸、と、ま、テ、ら、あ、ニ、ク、の、隣、よ、  
水、木、綿、  
水、木、綿、  
か、い、リ、小、舟、と、か、り、て、船、の、れ、  
伊、良、波、洗、路、  
舟、若、へ、上、下、と、ほ、じ、久、一、瓦、櫻、木、遊、里、  
数、の、ふ、く、と、す、と、下、若、モ、て、此、全、芦、露、  
ひ、き、古、室、リ、六、を、ふ、く、う、い、や、  
水、雫、鶴、  
毛、子、自、由、事、め、そ、と、ふ、ふ、滅、牡、若、下、晴、  
娘、の、か、ん、病、も、二、ぞ、ん、も、か、く、玉、  
か、か、り、脚、ド、ア、ソ、源、亨、人、や、く、青、錦、紀、來、  
や、ち、く、れ、娘、ワ、コ、ク、と、ツ、色、  
登、文、器、  
江、よ、こ、い、セ、み、さん、ど、も、か、ま、要、若、菜、永、印

行ひまじゆの内にう事と傳て丁玉川、文斎  
もじゆのうとぬりも山田とも 桧山水、木綿  
もじゆがみゆ、もじゆ 一 檀木、其林  
もじゆ、山川もじゆの時は、 檀水、其水  
ゆづきとの西山もじゆともそらむ 御幸、里蝶  
所のぞく、みゆ 霽、龜連  
りあすアニミホモシテヤヒトモ御幸、一南  
ナムロ高れの山もじゆ 山水、花江  
スコ内すてふあひく山井殊、金龜  
おひすくの室、とたんすはる 檀水、石斧  
もじゆを集め耶あをいハ祖シシ葉、玉川、カキ  
もじゆをせらふとばやく、しのぎ 檀水、石斧  
新藤、い、海、山川もじゆ 檀水、石斧  
十月の藤、い、海、山川もじゆ 檀水、石斧  
もじゆをやるわざもじゆのす 檀木、山印  
首のえへどももでむじ利刃、杜若、山扇  
もじゆへと能ときがすもじゆ 檀木、魏風  
もじゆへと能ときがすもじゆ 檀木、魏風

御所の毛利のゆがみ、伊呂波、琴亭  
とくとくと行ひ、後を深くし、玉川、嵐弓  
うつじりふねこちせしむかす御幸、哥遊  
傳のたゞ小綱とぬすみれ柳水、瓦斧  
け枝木、やへじとあひ、杜若、青  
峰あらわらと國のわざほり櫻木、南星  
とうかくかく始西方のとかけ玉川、丑雲  
竹扇と車とあや、粉引き、山水、諷々  
あんちうとじきしきく納りの、錦、水府  
物語の、御幸、舟志  
三重、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸  
御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸  
御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸  
元人の、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸  
せり、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸  
御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸、御幸

櫻木、雪歩  
杜若、扇  
錦、紀束  
拂水、石斧  
風頭

れどくぢくとのんびる。まよひ日 櫻木、七印  
トモ多江、ソレハアマサキシテ ある  
桜木、石波  
ホシヒロシ、あさぎりソレハアマサキシテ  
櫻木、木綿  
アマサキシテ あさぎり

あんぞのふ拂、因入<sup>アリ</sup>す。伊豆波、洗路  
二つ、うげと、もよひて、くる。玉川、水底  
さう人よきこと、で、髪と、あつゆひ、御幸、長安  
年れの、ははは、そぞく、孙り、いか、山水、鶴鳴  
芋くぬぐへて、に、夷了<sup>アマテ</sup>を、もみゆる。玉川、文車  
くわざれ、さがふ、ももの、が、林毒窟、夙雪、吉印  
峰の、向、玄室<sup>アマミヤ</sup>を、もみゆる。  
小、ゆ小舟<sup>アマツボ</sup>、は、ゆく、もと、やまと、伊豆波、洗路  
下女が、ぬ虫<sup>アマツボ</sup>を、もとの、えれる、今、

人少々

山腰を半面うり

玉川、丑霍

四會の嶺てすとてしもらニ西向

生、丑丸

タマノ木すとらむの國丈を

桜水、桃李

タマノ木すとらむの國丈を

生、石斧

トモシハサウ左也とあくさる

玉川、立赤

日と月と上へ後と下へす

櫻木、洗路

トモシハサウ左也とあくさる

若菜、春節

ナツタリミソリ

山水、東里

ナツタリミソリ

牛込、亀遊

西とくとわくおせせれり

玉川、丑雲

もとゆせくひの内あくまくさ

水、木綿

いとよどみそんぐりゆくさ

若菜、春水

みめきよがよて、たんびくみづき

櫻木、小石

あくうけと侍のじまの内

霍龜、鬼頭

日と月とアトリと侍のじまの内

錦、舍利

大鳥の三トドであるの右や

登、一和

水川の身うちすて辭ても

櫻木、黒兔

松のほそすふぢのつまると

牛込、眠狛

新造とあるやうなまにひて 柳水、石斧  
洞とてゆきてゆくとて金 伊呂波、先路  
のぞゆとてか兼ねむを庵 玉川、嵐弓  
まらんとてのあらわさめ 玉川、立  
りすとてゆきてゆくとてや草とて 玉川、立雲  
ち風かとてゆくとてや草とて 杜若、洗車  
あとはとてゆくとてせがれとて 玉川、立示  
け西海ノカミの有 村、春水、若菜、春水  
北のうどとが病とおひて居 玉川、口露

みすとあまとて首とおひて居る 玉川、文筆  
大とてぐだりとておひて居る 箕箒、琴亭  
かくりとの味嗜は實すとて煮、せす 櫻木、芦露  
十五年りでかくらとて公セ 楠木、石斧  
ゑやくらとておひて居る 玉川、立雲  
一二首ハくらのうりで多ひく 櫻木、洗路  
かくらとての物とて 玉川、水砲  
之のちやびてつりゆくとて 伊浪、萬故  
櫻木アヤマヒに喰て老ぬの有とす 玉川、立雲

名別、早計の翠とよぶ  
管てがちあく時、せひ  
紫乳と二月の事、重ふ  
羞矣、亦印  
沙野の紅錦緋絨と並び  
想ふべつじゆうの礼  
山水、木綿  
ひやんざわらひく  
あじてくらむ、本居の文  
櫻木、其虹  
王門、口連  
操業、洗路  
登、潔水  
年水緑、  
也智と見  
海の聲の桂  
蟹浪、儀長

武の牛解を毛小人、之  
筆と云ひけり。ヨリちく  
石丁のマツボ、雛のアキモ  
たぬきのうらやまと大喜び等  
ゆのちうども人めにし  
くどうせんとおいたゞくとゞち  
あ房と徳島と二三成やさる  
牛の角とめぐらし等  
六會目

標水、桃李

海辺の魚と山の日を以て。 円、立雲  
仰き立つ有りハキシガ前見そ  
松のかげの下をうらむる所ある  
ニミシんとすててはととりく 杜若、立扇  
かぶのねテ人で筆と毛にし 錦、二浪  
みぢりうじふなとほりく馬 櫻木、洗路  
らぞうとくらんであわせらるる  
や前のみくらうせよほよと 玉川、立連

手すりのまへに付く今 櫻木、芦露  
首筋のまへに付く今 櫻木、舍樂  
うかをねがひるがあけいが  
ひのきのまへに付く今 霽龜、鬼頭  
もゆかざらぬといのとぬす 王川、土葦  
うめゆかじくのとてどくとぬ 伊豆波、水砲  
もゆの紅茶こうとそくとぬ 佐仲  
もゆあぢくとふやうでぬく 牛込、亀遊  
もゆうかじくハねことうみゆ 櫻木、南星

候直して云せと聞かず也即ち錦、紀束  
ども一のよりひのと云ふ也す伊呂波、洗路  
がレモふてぢづくは行とまく玉川、口連  
ばづのカトとおじ軍老く伊呂波、洗路  
ア妹ひのつむこと、口連玉川、口連  
うら町てぢづくあり前ともうそく  
登、龟原  
ゆひのとのもくらまくまのか人、玉川、男好  
晴、やハ傳うんのとよしを全  
柄木、雲永



おもやうの匂うの匂ひ人うそさんやく 櫻木 猛紙

年一もの毒かうへてくせせあ 登、文墨

書用

ほのん波へ一窓あらかうら 錦、紀来

小豆こきしりむかと血とるすく 梶木、空始

アヌシム、そうと くくれこつ

若菜、一口

ひてはくらうお前り さき 櫻木、青火

さらわくらうとあいの布と青

今

立扇

るの絆さくとけりとね

伊良良、丑雲

下の絆さくとけりとね

若菜、櫻表

うてのうらうくらうとあいとね

牛込、泉河

くらうれぬもうとあいとね

錦、紀來

年の大とくらうのかくらう

牛込、眼紙

人といじくらうとあいとね

櫻木、洗路

くらうとくらうとあいとね

伊良良、小砂

見くらうとくらうとあいとね

玉川、丑乐

せうのうくらうとあいとね

押水、玉簾

ハクシテくらうとあいとね

杜若、梅斧

ちくわくとひぬびとね

ちいぢやぐらまへてとせ残る牛込、泉河

三ともぐりて四河との山河錦、紀来

の身もこらすもあまむすが今水府

の身もこらすもあまむすが今櫻木、洗路

代後山して死生ハニスル杜若、口連

の身もこらすもあまむすが今櫻木、伊呂波、洗路

の身もこらすもあまむすが今櫻木、下晴雨

の身もこらすもあまむすが今櫻木、登、文仲

の身もこらすもあまむすが今櫻木、田支

の身もこらすもあまむすが今櫻木、錦、二浪

見一ノアでかきもとつてもこひら櫻木、其林

のとせうつてくねえつてうめら櫻木、真砂、丘盛

のとせうつてくねえつてうめら櫻木、杜若、梅谷

のとせうつてくねえつてうめら櫻木、丘莫

のとせうつてくねえつてうめら櫻木、小袖、牛込、龜遊

のとせうつてくねえつてうめら櫻木、伊豆波、吟之

のとせうつてくねえつてうめら櫻木、洗路

海の波が手じゆんをうしり 柳水、玉簾  
のやうにまんべうとあへて 櫻木、具休  
二の門のこもれ柳あらわとせ 柳水、雨譚  
白のゆく里アツ嫁の月うし 風雪、古泉  
うら門ておのい徑とくとめし 拝水、雨譚  
えき廻るよかまほさんか 櫻木、本綿  
ひきウドアロガシモレシモ 未勝  
みち岡トシク人ぬきとくも 登、文器  
ひーり計画のぬてまくまく 玉泉、芦露

四百四

さとしんのちひのアガサちやんと玉川、東支  
シテシテのくしてかでうかがふと牛込、門柿  
シテシテの病ら一そよごめいふく錦、水府  
シテシテのくして居らひきのく 今 二浪  
モ魚のりんざくと居り一あひ 櫻木、葛故  
ゆもむらくらうものやうにしき 楠木、立扇  
のくとくらうものやうにしき 楠木、立扇

安永八巳亥春

東山麓

星運堂

拾玉集來子春才板

惟生

蘆秀堂

